



生きるを、ともに、つくる。
公益社団法人 日本看護協会

2022年度 「ナースセンター登録データに基づく看護職の 求職・求人・就職に関する分析」結果 求職者が幅広い年齢層で増加 「55～59歳」「60歳以上」では1.5倍以上増加(2020年度比)

公益社団法人日本看護協会（会長・高橋弘枝、会員76万人）は、看護職の求職・求人・就職に関する報告として、2022年度の都道府県ナースセンターの登録データの集計・分析結果をまとめました。

都道府県ナースセンターは、都道府県知事からの指定を受け、都道府県看護協会が運営しています。全国91カ所（うちサテライト・支所44カ所）のナースセンターを運営、看護職の無料職業紹介事業や潜在看護職の復職支援事業を実施しています。

日本看護協会では今回の集計・分析の概要として、2022年度の求人倍率、求人、求職者、就職者の状況、応募・就職の状況から、施設種別の状況を中心に報告しています。全ての結果を収載した「2022（令和4）年度ナースセンター登録データに基づく看護職の求職・求人・就職に関する分析報告書」は、本会公式ホームページ（<https://www.nurse.or.jp/>）で全文をご覧いただけます。

報道関係者の皆さまには、このたびの報告の趣旨にご理解をいただき、さまざまな機会にご紹介いただきますよう、よろしく願いいたします。

主な結果

【求職者について】

- 2022年度の求職者数は96,302人で、2021年度を除くと2007年以降もっとも多かった。2021年度の求職者数の大幅な増加は、新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種業務就業準備金の支給条件として、eナースセンター（都道府県看護協会による無料職業紹介事業）の登録を求めていることが要因の一つとして考えられる。（P.4_図1）
- 年齢別にみると「24歳以下」以外の全年代で2020年度に比べて増加した。特に「55～59歳」11,222人、「60歳以上」13,870人は、2020年度と比べて1.5倍以上増加した。一方「24歳以下」1,808人は、2021年度には他の年代と同様に増加したものの、2020年度と比べて約3割減少していた。（P.5_図2）

- 希望する施設種類別の求職者数をみると、もっとも多いのは「診療所（無床）」であり、次いで「病院（20～199床）」「健診センター・労働衛生機関」「病院（200～499床）」「市区町村・保健センター」の順であった。（P.6_図3）
 - 求職者の求職時の就業状況をみると「未就業または看護職以外で就業中」の者は52.3%を占め、「就業中（看護職）」であった者は42.8%であった。（P.7_図4）
 - 看護職として就業中の求職者が考える退職したい理由をみると、全体では大きな変化はなかった。ただし「24歳以下」では「自分の健康（主に精神的理由）」が20.3%でもっとも多い理由となった（*2021年度は同年代で11.8%）。
また「30～34歳」では「夜勤の負担が大きい」が10.3%で4番目に多い理由となった（*2021年度は同年代で5.7%）。（P.8～9_表5-1、5-2）
 - 求職者が就職の際に重視する条件をみると、全体でもっとも多いのは「勤務時間」20.0%であり、次いで「給与」16.2%、「看護内容」14.4%、「通勤時間」14.1%、「休暇」9.1%の順であった。
年齢別では、「24歳以下」では看護内容、「25～29歳」では給与、「30～34歳」以上では勤務時間が最も多かった。（P.10_図6）
 - 求職就職率を年代別にみると、もっとも高いのは「60歳以上」22.9%であり、次いで「55～59歳」15.2%、「50～54歳」14.5%と、年齢が高い方が高い割合であった。（P.11_図7）
- 【求人について】**
- 2022年度のナースセンターの求人数は176,797人、求職者数は96,302人、求人倍率は求人倍率1.84倍であった。（P.4_図1）
 - 施設種類別に求人数をみると、もっとも多いのは「病院（20～199床）」34,265人、次いで「病院（200～499床）」24,078人、「訪問看護ステーション」19,486人の順であった。（P.6_図3）
 - 施設種類別に求人採用率をみると、もっとも高いのは「救護（イベント等）」81.9%、次いで「健診センター・労働衛生機関」31.5%、「市区町村・保健センター」29.3%、「都道府県・保健所」26.7%の順であった。（P.12_図8）
 - 雇用形態別に求人採用率をみると、もっとも高いのは「臨時雇用」65.4%、次いで「非常勤」9.0%、「常勤」2.5%の順となっている。（P.13_図9）

【求人倍率について】

- 2021年度を除くと2007年以降もっとも低い求人倍率1.84倍であった。(P.4_図1)
- 施設種類別にみると、もっとも高いのは「訪問看護ステーション」3.88倍、次いで、「病院(20~199床)」2.30倍、「病院(200~499床)」1.88倍、「介護老人福祉施設(特養)」1.41倍、「病院(500床以上)」1.35倍の順となっている。(P.13_図10)
- 雇用形態別にみると、もっとも高いのは「常勤」2.50倍であり、次いで「非常勤」1.62倍、「臨時雇用」0.52倍の順であった。(P.14_図11)

1. 求職者数・求人数・求人倍率の推移

- 求職者数96,302人、求人数176,797人、求人倍率1.84倍
- 2021年度を除くと2007年以降最も多い96,302人※
- 求人数は2021年度の176,334人から463人、0.26%増加
- 2022年の求人倍率は、2021年度より0.51増加

※2021年度の求職者数の大幅な増加は、新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種業務就業準備金の支給条件として、eナースセンターの登録を求めていることが要因の一つと考えられるため2020年度と比較した。

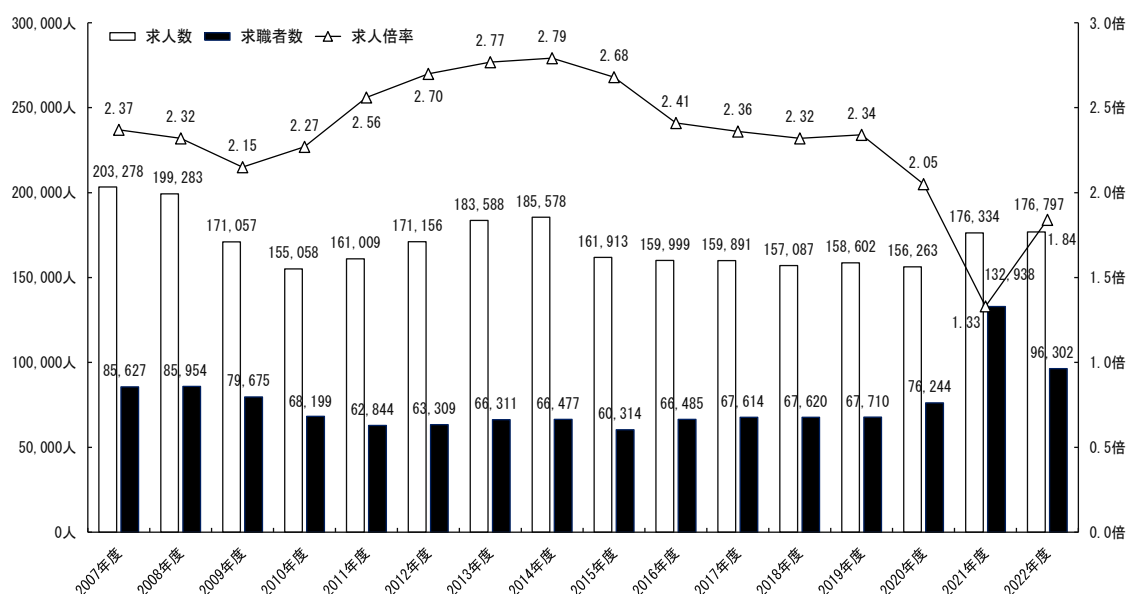


図1 求職者数、求人数、求人倍率の推移

2. 年齢別の求職者数の推移

- ・2020年度と比べると「24歳以下」以外の全年代で増加
- ・「55～59歳」「60歳以上」では、1.5倍以上の増加

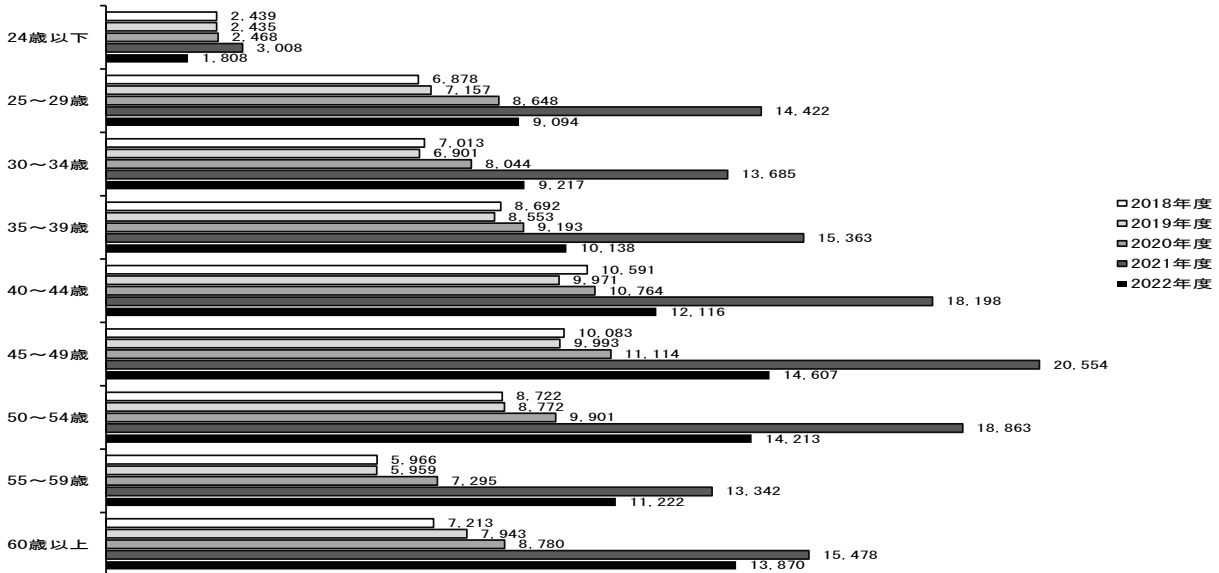
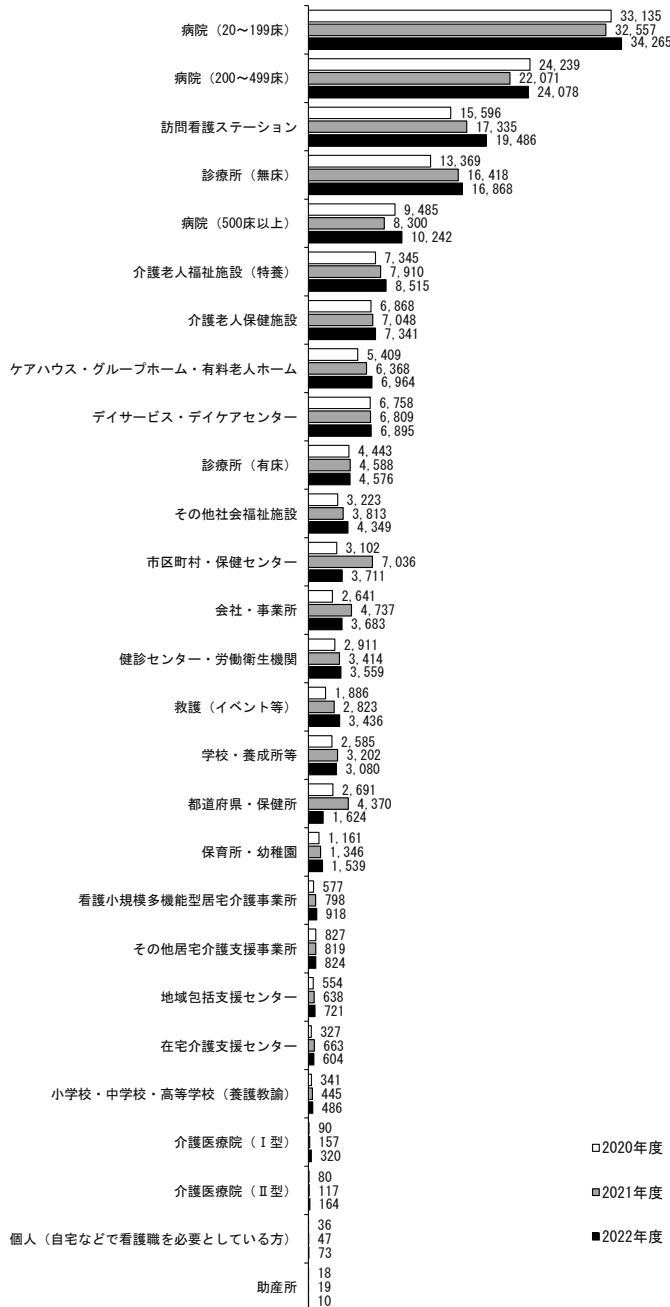


図2 求職者数の推移（年齢別）（2018～2022年度）

3. 施設種類別の求人数、希望する施設種類別の求職者数の推移

- ・直近3年間の求人数は「訪問看護ステーション」「診療所（無床）」「介護老人福祉施設（特養）」「介護老人保健施設」「ケアハウス・グループホーム・有料老人ホーム」などで増加（P6_図3・左）
- ・直近3年間の求職者数の推移をみると、2021年度から2022年度にかけて、ほぼ全ての施設種類で求職者が減少していた。他方、上位5位を占めた施設種類は2021年度と同様、上位5位を占めた施設種類は2021年度と同様「診療所（無床）」「病院（20～199床）」「健診センター・労働衛生機関」「病院（200～499床）」「市区町村・保健センター」であった。（P6_図3・右）

施設種類別の求人数



希望する施設種類別の求職者数 (複数回答)

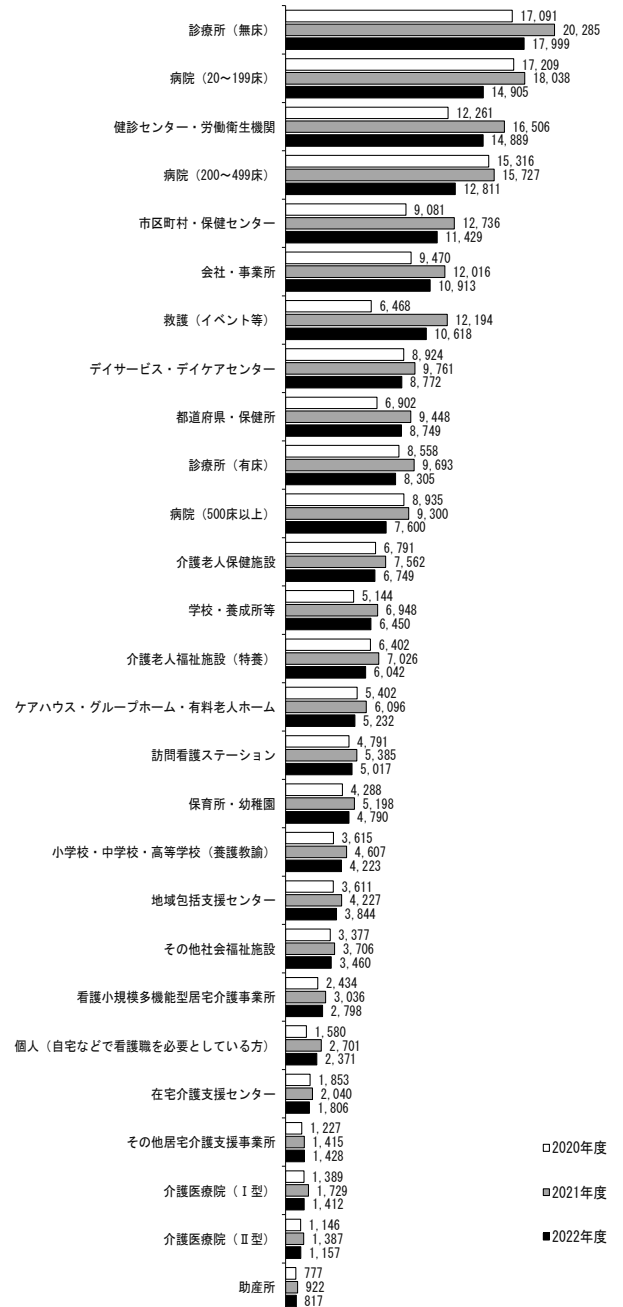


図3 施設種類別の求人数、希望する施設種類別の求職者数の推移 (2020~2022年度)

4. 求職者の求職時の就業状況

- ・「未就業または看護職以外で就業中」の者は求職者全体の52.3%
- ・「就業中（看護職）」であった者は求職者全体の42.8%

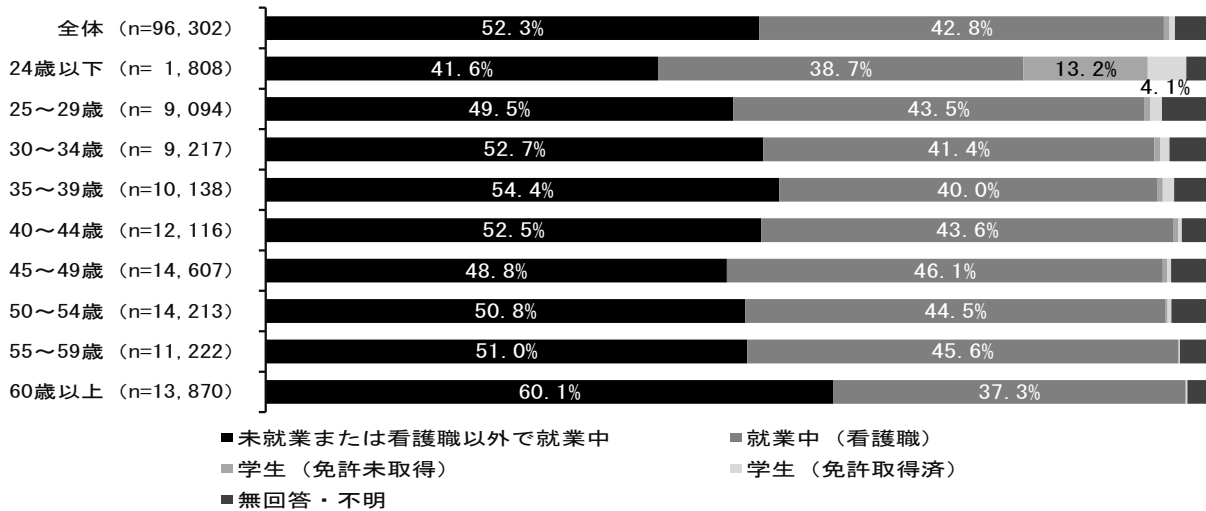


図4 求職者の求職時の就業状況（年齢別）

5. 看護職として就業中の求職者が考える退職したい理由

- ・全年代で見ると「看護職の他の職場への興味」が13.6%で最多
- ・「24歳以下」では、「自分の健康（主に精神的理由）」20.3%（前年11.8%）、「看護職の他の職場への興味」16.9%（前年16.7%）、「勤務時間が長い・超過勤務が多い」12.9%（前年17.0%）、「自分の健康（主に身体的理由）」12.5%（前年7.4%）、「自分の適性・能力への不安」12.0%（前年10.6%）の順に多く、2021年度に比べ健康面に関する理由が多い。（P8_表5-1、P9_表5-2）
- ・「30～34歳」では、「看護職の他の職場への興味」17.2%（前年15.4%）、「転居」12.2%（前年10.2%）、「子育て」10.5%（前年7.8%）、「夜勤の負担が大きい」10.3%（前年5.7%）、「結婚」10.1%（前年7.9%）の順が多かった。「夜勤の負担が大きい」は前年度より4.6%上昇した。（P8_表5-1、P9_表5-2）

表5-1 就業している求職者の退職したい理由（複数回答）（2022年度）

Table with 15 columns: Rank, Reason, % (n), % (n), % (n), % (n), % (n), % (n), % (n), % (n), % (n), % (n), % (n), % (n), % (n). Rows list reasons for resignation such as 'Workload', 'Lack of growth', 'Salary', etc., with corresponding percentages and counts.

表5-2 就業している求職者の退職したい理由（複数回答）（2021年度）

Table with 15 columns: Rank, Reason, % (Total), % (30-34), % (35-39), % (40-44), % (45-49), % (50-54), % (55-59), % (60+), % (Total), % (30-34), % (35-39), % (40-44), % (45-49), % (50-54), % (55-59), % (60+). Rows list reasons for resignation such as '長時間勤務', '給与に不満', '職場の雰囲気'.

6. 求職者が就職の際に重視する条件

- ・ 求職者が就職の際に重視する条件は、「勤務時間」20.0%、「給与」16.2%、「看護内容」14.4%、「通勤時間」14.1%、「休暇」9.1%の順（図6左）
- ・ 就職者が重視していた条件は、「勤務時間」18.9%、「給与」13.8%、「看護内容」13.3%、「通勤時間」12.8%、「休暇」7.8%の順で、求職者が就職の際に重視する条件と違いは見られなかった。（図6右）

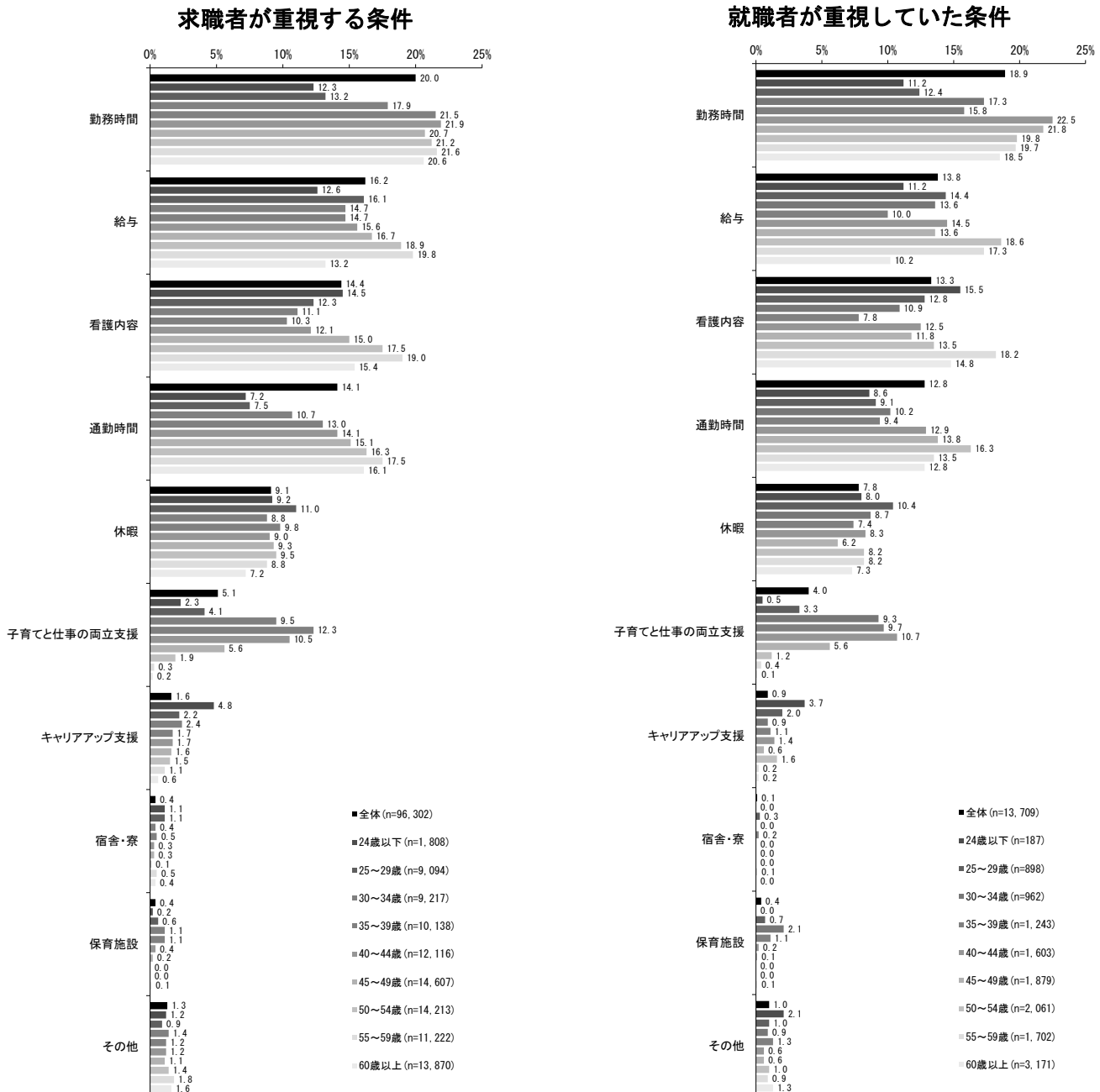


図6 求職者が重視する条件、就職者が重視していた条件（上位3つまでの複数回答）

7. 年齢別の求職就職率

求職者が就職する割合は「60歳以上」22.9%、次に「55～59歳」15.2%、「50～54歳」14.5%の順

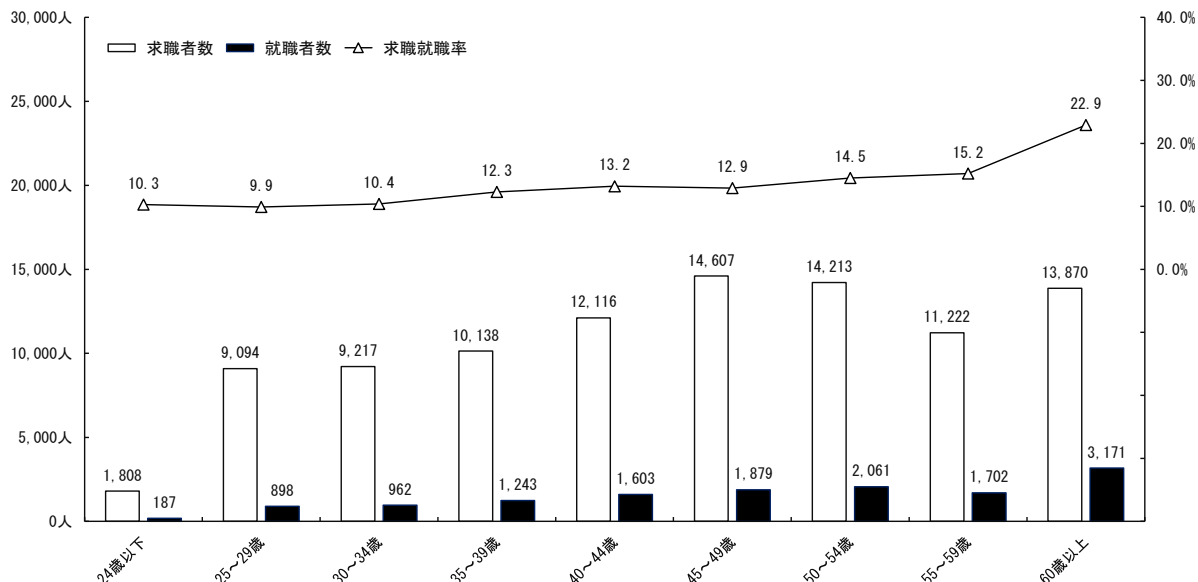


図7 求職就職率（年齢別）

8. 施設種類別の求職就職率・求人採用率

- ・求職者が就職する割合は、「救護（イベント等）」26.5%、「市区町村・保健センター」9.5%、「病院（20～199床）」7.7%の順
- ・求人施設が採用する割合は、「救護（イベント等）」81.9%、「健診センター・労働衛生機関」31.5%、「市区町村・保健センター」29.3%の順

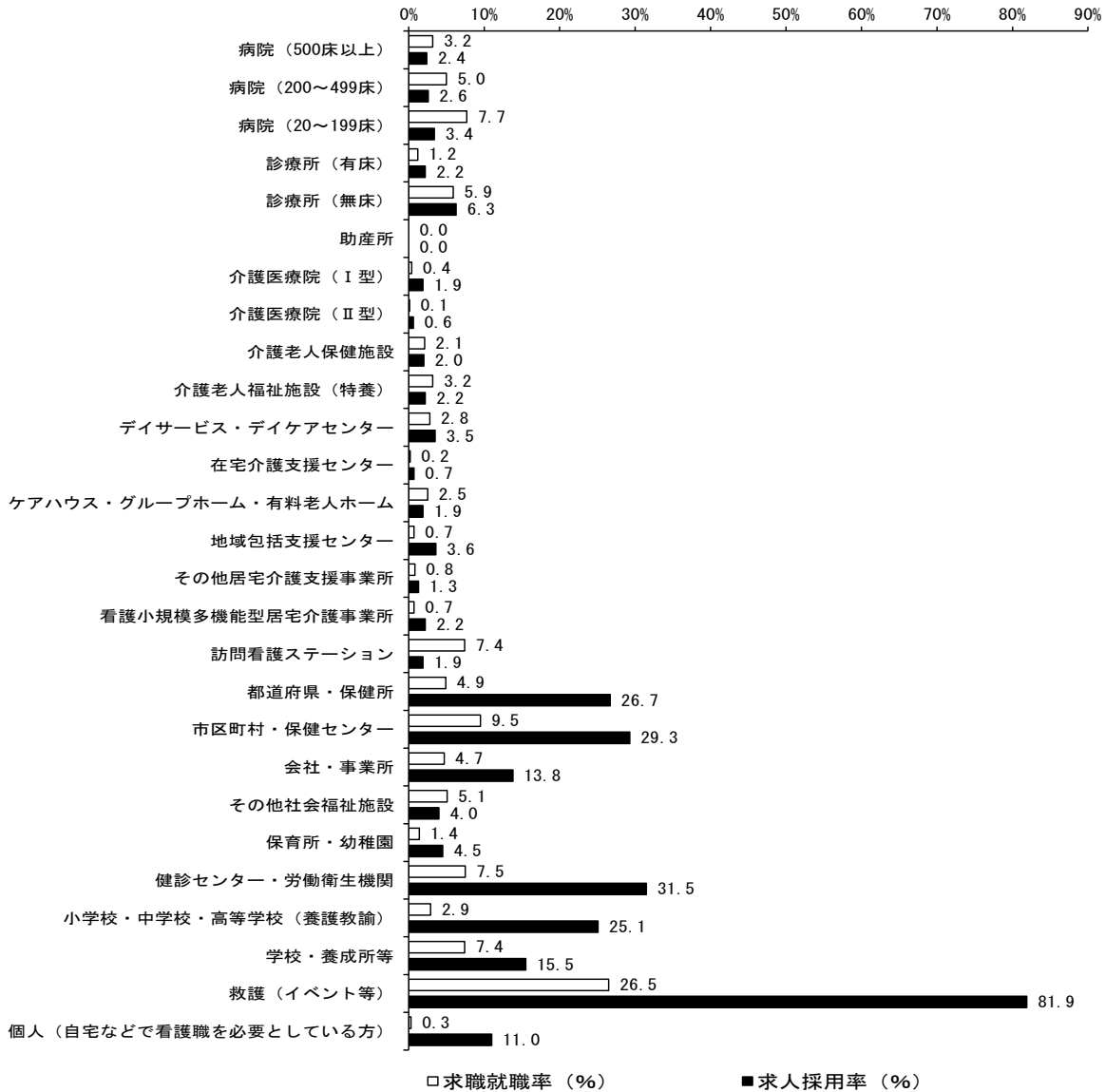


図8 求職就職率・求人採用率（施設種類別）

9. 雇用形態別の求職就職率・求人採用率

- ・ 求職者が就職する割合（求職就職率）は、「臨時雇用」34.1%、「非常勤」14.5%、「常勤」6.1%の順
- ・ 求人施設が採用する割合（求人採用率）は、「臨時雇用」65.4%、「非常勤」9.0%、「常勤」2.5%の順

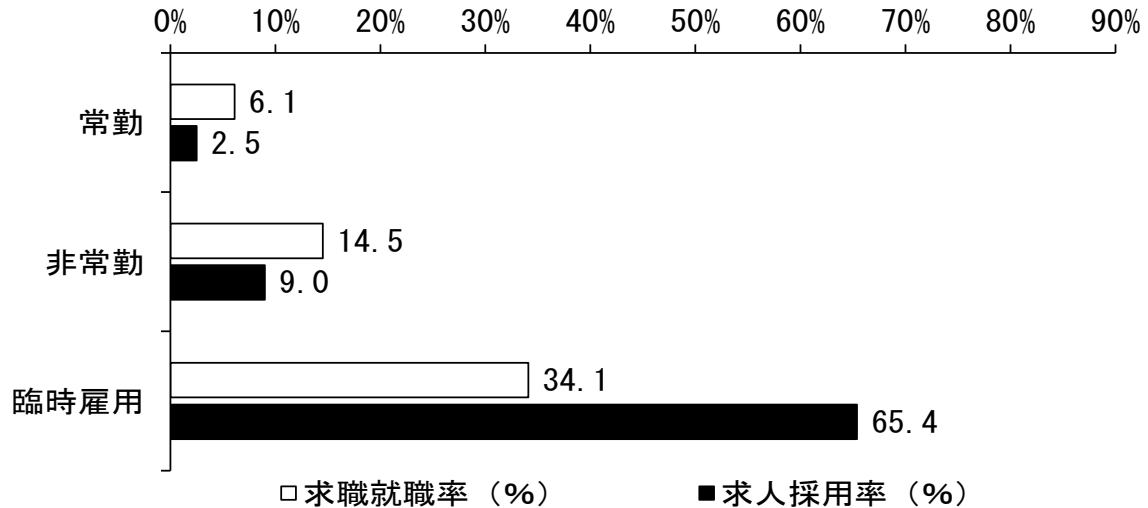


図9 求職就職率・求人採用率（雇用形態別）

10. 施設種類別の求人倍率

訪問看護ステーションの求人倍率は3.88倍、施設種別で最高

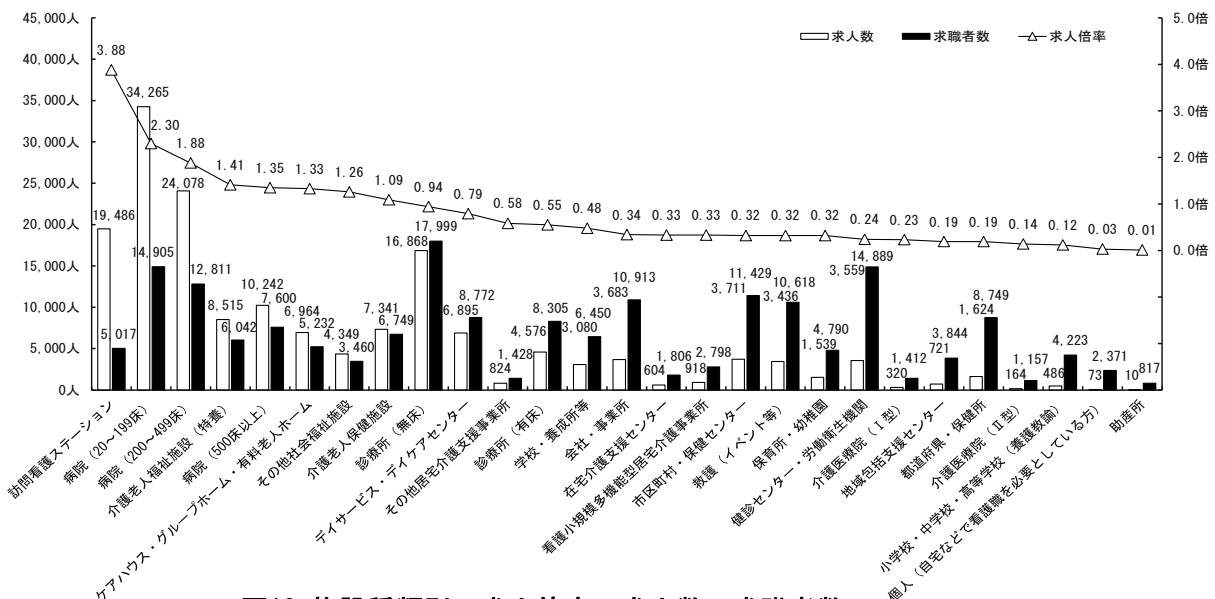


図10 施設種類別の求人倍率、求人数、求職者数

11. 雇用形態別の求人倍率の推移

- 2021年度と比べて、全ての雇用形態において求人倍率が上昇
- 雇用形態別の求人倍率は、「常勤」が2.50倍、「非常勤」が1.62倍、「臨時雇用」が0.52倍の順

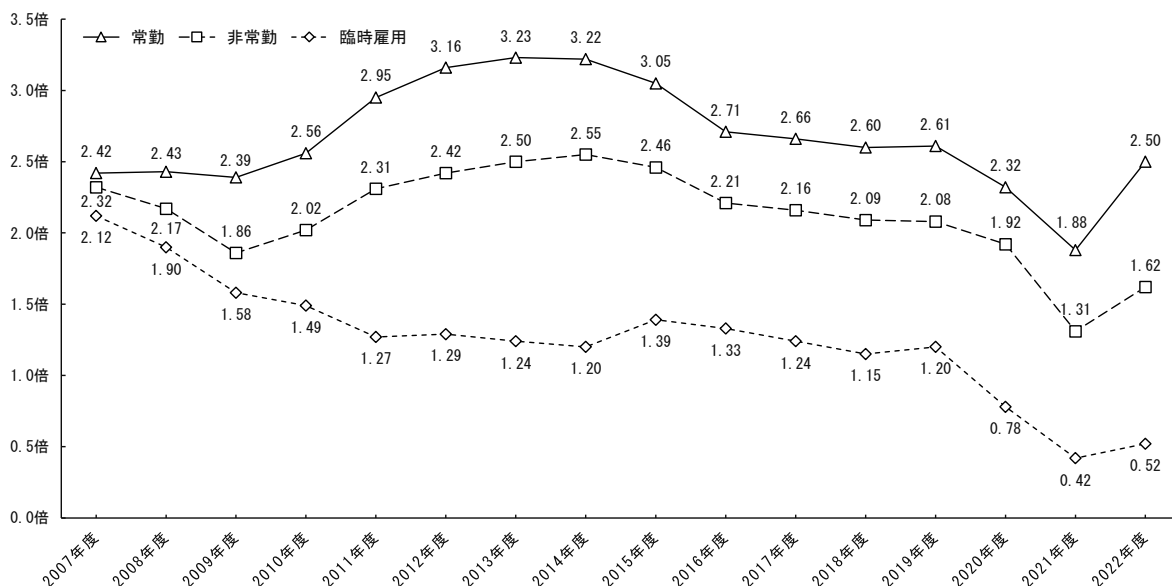


図11 雇用形態別の求人倍率の推移